



茨城労働局発表  
平成24年11月30日

【照会先】  
茨城労働局労働基準部(健康安全課)  
課長 橋本 篤弘  
安全専門官 大津 徳男  
(直通電話)029(224)6215

### 年末・年始における労働災害防止対策の強化について

#### ～死亡災害多発、年末・年始の労働災害防止に向け対策を強化～

茨城県内の労働災害発生件数が3年連続で増加となる恐れが生じている上に、死亡災害が大幅に増加している状況を受けて、茨城労働局(局長 中村俊一)は、平成24年12月1日から平成25年1月31日までを「平成24年度年末・年始労働災害防止強化運動」(以下「強化運動」)期間に設定し、関係団体、発注機関、県内各事業場に対して、例年死亡災害が多発する年末年始を無災害で乗り切るとの強い決意で労働災害防止活動を強化するよう呼びかけています。

期間中には、関係業界団体及び県内各事業者に対し自主的パトロールの強化等を要請するほか、県内の全労働基準監督署(8署)の職員を動員して集中的に建設現場等に対する立入検査を行います。(詳細は以下のとおり。)

- 1 強化運動の背景(休業災害が増加している上に死亡災害が多発しています。)  
茨城県内の休業4日以上之死傷災害が増加している上に、死亡災害が急増している状況にあります。本強化運動は、労働災害特に死亡災害等重篤な災害防止を県内事業場に呼びかけるものです。

#### (1) 休業災害の増加(災害発生状況 別添資料1参照)

茨城県内の平成24年年始から10月末までの休業4日以上労働災害発生件数(速報値)は、2250件で対前年で大幅増加となった昨年同期と比較して31件増(+1.4%)となっています。

主要業種別では、道路貨物運送業で大幅な減少(-21.2%)となって震災前

の水準に戻っていますが、建設業では大幅増となった昨年から微減（-3.4%）に留まり、小売業では微増（+2.4%）となっています。また、社会福祉施設（+15.5%）、食料品製造業（+15.8%）、金属製品製造業（+28.7%）で大幅な増加が認められます。

#### （2）死亡災害の多発（死亡災害の状況及び一覧表 別添資料2参照）

本年11月27日現在の死亡者数は32名で、前年同期（29名）と比較して3名の増加（増加率10.3%）という状況です。昨年の死亡災害には3月11日の震災当日に震災を直接原因とする死亡6名が含まれていますので、これを除くと9名増で率にして30.1%もの増加ということになります。

業種別では、建設業が全体の31%、道路貨物運送業が19%、小売業及び製造業が16%となっています。

事故の型別では、交通事故が12件で全体の37%を占めています。道路貨物運送業でのトラック運転中の交通事故が3件、新聞販売業での配達中の交通事故が3件と多くなっています。

また、震災復旧工事に係わる死亡災害も3件発生しており、このうち2件が土木工事現場での事故となっています。

## 2 労働災害増加の原因

労働災害増加の背景には、リーマンショック後の景気回復による生産増や震災後の復旧工事の増加なども一因と考えられますが、同時に長期的に減少してきた建設業や製造業でも増加していることから、長引く厳しい経営環境での合理化の進展等によって安全衛生管理体制が劣化していることも懸念されます。

特に茨城県内の建設業においては、震災復旧工事の急激な増加により現場での安全衛生管理体制の確保が不十分な状況となっていることが建設業関係者から指摘されています。

また、産業構造の変化に伴って労働者数が増加している小売業や社会福祉施設等の第3次産業では、安全衛生管理体制の確立や未経験者に対する安全衛生教育が間に合っていないと考えられます。

## 3 年末・年始に強化運動に取り組む理由

例年、年末・年始には建設業や製造業を中心に死亡災害等の重篤な災害が多発する傾向があります。（別添資料3参照）

この原因は、年末・年始の長期休業に向けて作業が錯綜することに加え、機器の整備や設備の変更など通常では生じない不慣れな作業（非定常作業）が多数発生することや、食料品製造業等では年末年始の需要が急増することも指摘されて

います。

本年は、全体的に安全衛生管理体制が劣化していることが懸念される中で年末年始の死亡災害等多発期間を迎えることとなります。

年末年始が死亡災害等重篤災害多発期間であることを県内の各事業場に認識していただき、無災害で乗り切るように改めて安全衛生活動の強化を行う必要があると判断したものです。

#### 4 具体的な取組内容（別添資料4「実施要綱」参照）

##### （1）茨城労働局の取組事項

###### ①事業場等に対する監督指導・パトロールの強化

12月中に県内監督署の担当職員を動員し、建設現場に対する一斉監督指導等を集中的に実施する。

###### ②当該運動の周知・徹底

災害防止団体等関係事業者団体等に対して、運動の趣旨徹底及び自主的パトロールの強化を要請する。

なお、建設工事の発注機関に対しても同様な要請を行う。

###### ③死亡多発業種団体等に対する個別要請

死亡災害が多発している、建設業、道路貨物運送業、新聞販売業に対して、それぞれの事業主団体に個別要請を実施する。

##### （2）関係事業者団体・発注機関等への取組要請事項

###### ①会員事業場等に対する趣旨の周知・徹底

関係団体の会員事業場及び関係請負事業場に対して年末年始労働災害防止強化運動の趣旨の周知・徹底を図ること。

###### ②自主的パトロールの強化

関係団体や発注機関の役職員等により、関係事業場や工事現場等に対する自主的パトロールを強化すること。

##### （3）事業場への取組要請事項

###### ①経営トップが先頭に立つ労働災害防止活動の強化

経営トップが「災害発生ゼロ」の決意表明を行い、安全衛生パトロールの実施するなど、労働災害防止活動の先頭に立つこと。

###### ②非常作業を念頭においた災害防止活動の推進

非常作業を想定した、リスクアセスメント、KY活動等により事前に危険箇所や危険な作業を排除すること。

###### ③労働安全衛生の意識高揚

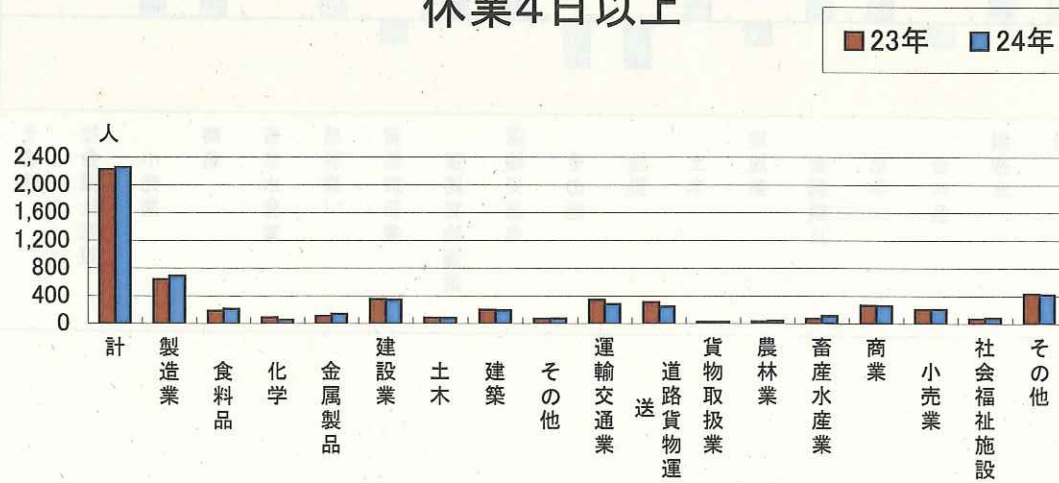
教育の徹底、安全衛生旗の掲揚など意識高揚を図ること。

# 労働災害発生状況(茨城)

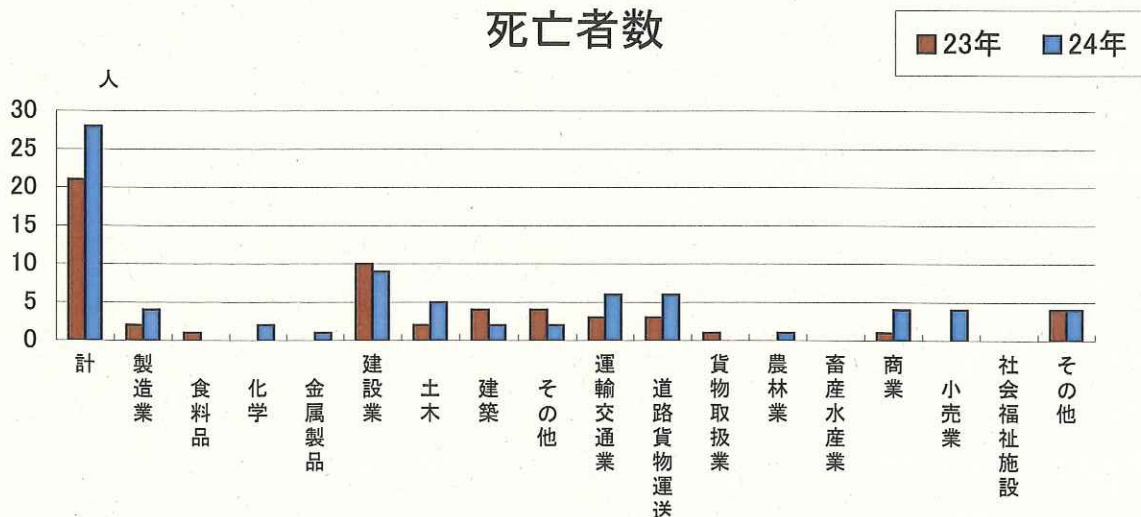
(平成24年10月末現在)

業種別	休業4日以上		死亡者数		増減		死亡
	23年	24年	23年	24年	休業(%)		
	1月~10月	1月~10月	1月~10月	1月~10月			
計	2,219	2,250	21	28	31	(1.4)	7
製造業	636	690	2	4	54	(8.5)	2
食料品	183	212	1	0	29	(15.8)	-1
化学	86	53	0	2	-33	(-38.4)	2
金属製品	108	139	0	1	31	(28.7)	1
建設業	353	341	10	9	-12	(-3.4)	-1
土木	84	80	2	5	-4	(-4.8)	3
建築	200	189	4	2	-11	(-5.5)	-2
その他	69	72	4	2	3	(4.3)	-2
運輸交通業	340	283	3	6	-57	(-16.8)	3
道路貨物運送業	311	245	3	6	-66	(-21.2)	3
貨物取扱業	23	23	1	0	0	(0.0)	-1
農林業	34	42	0	1	8	(23.5)	1
畜産水産業	70	111	0	0	41	(58.6)	0
商業	264	258	1	4	-6	(-2.3)	3
小売業	205	210	0	4	5	(2.4)	4
社会福祉施設	71	82	0	0	11	(15.5)	0
その他	428	420	4	4	-8	(-1.9)	0

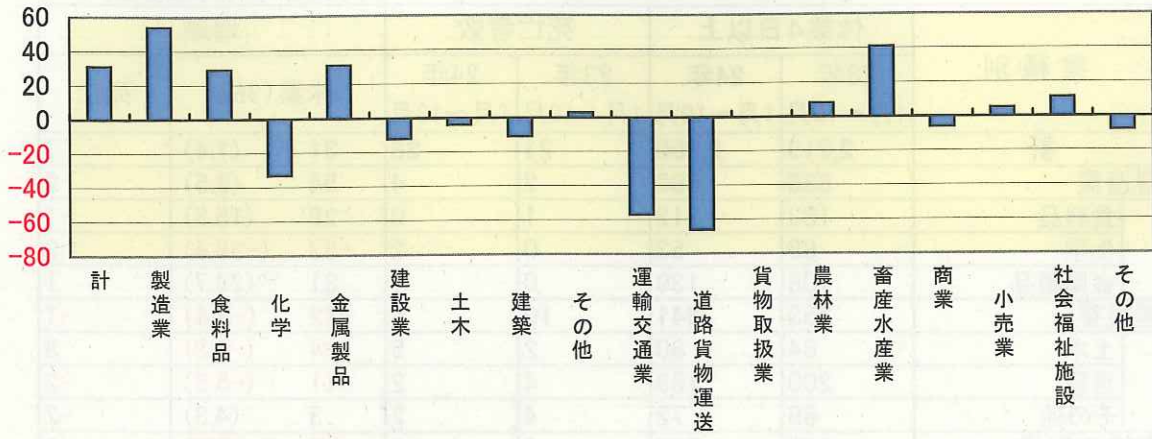
## 休業4日以上



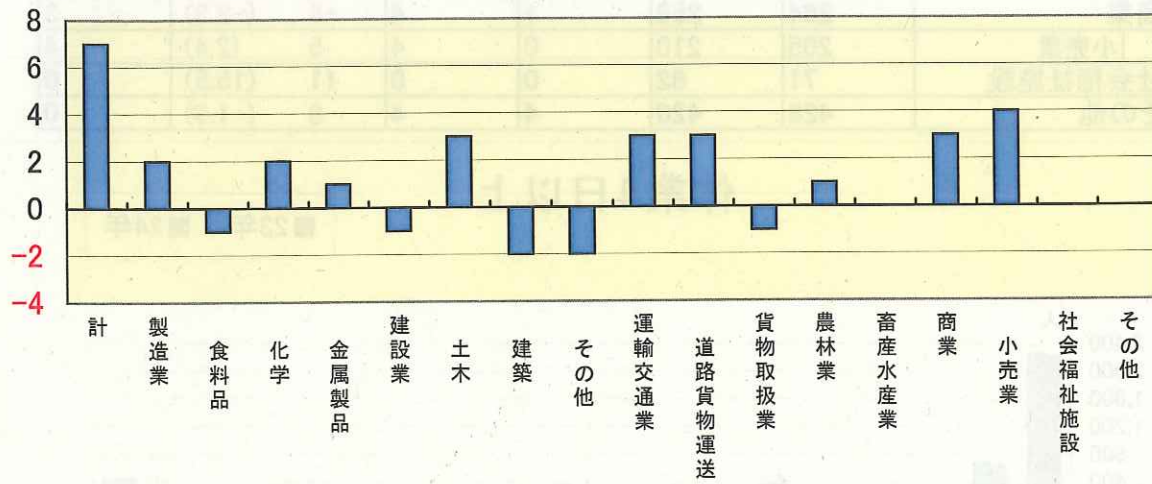
## 死亡者数



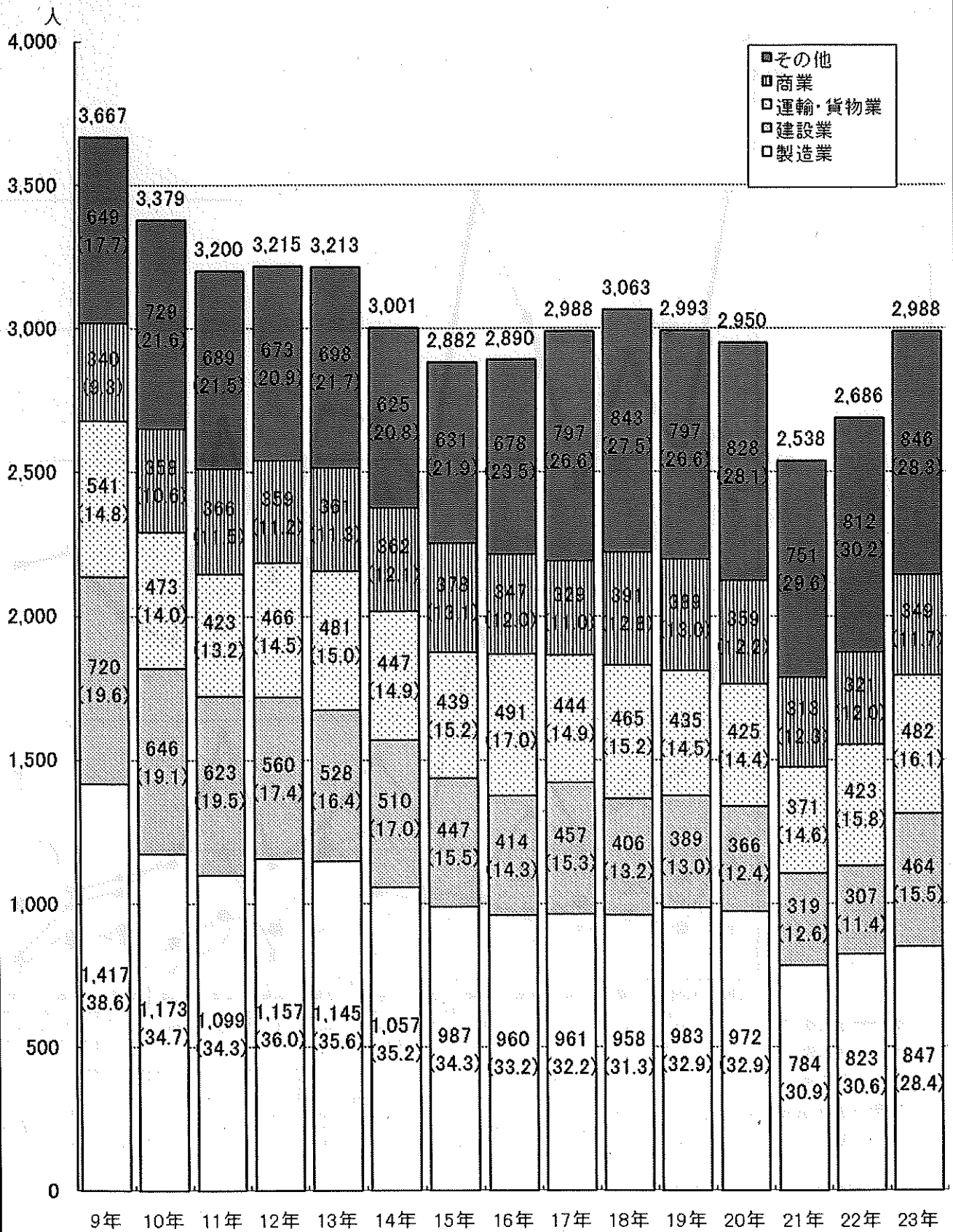
災害発生状況の前年との増減（休業4日以上）



災害発生状況の前年との増減（死亡）

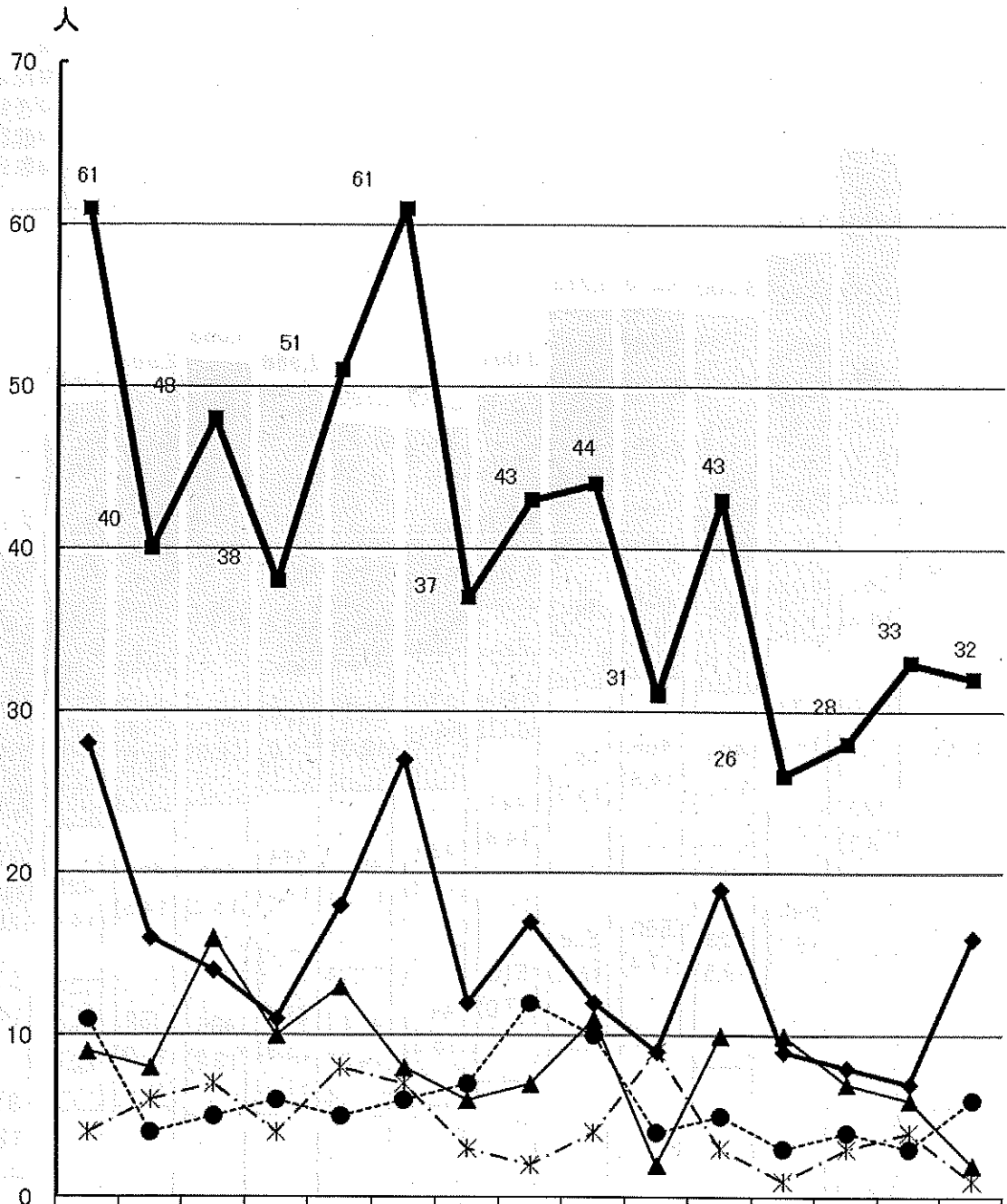


参考資料1 死傷者数(休業4日以上)の推移 (茨城)



(注) 1. 資料出所:「労働者死傷病報告」

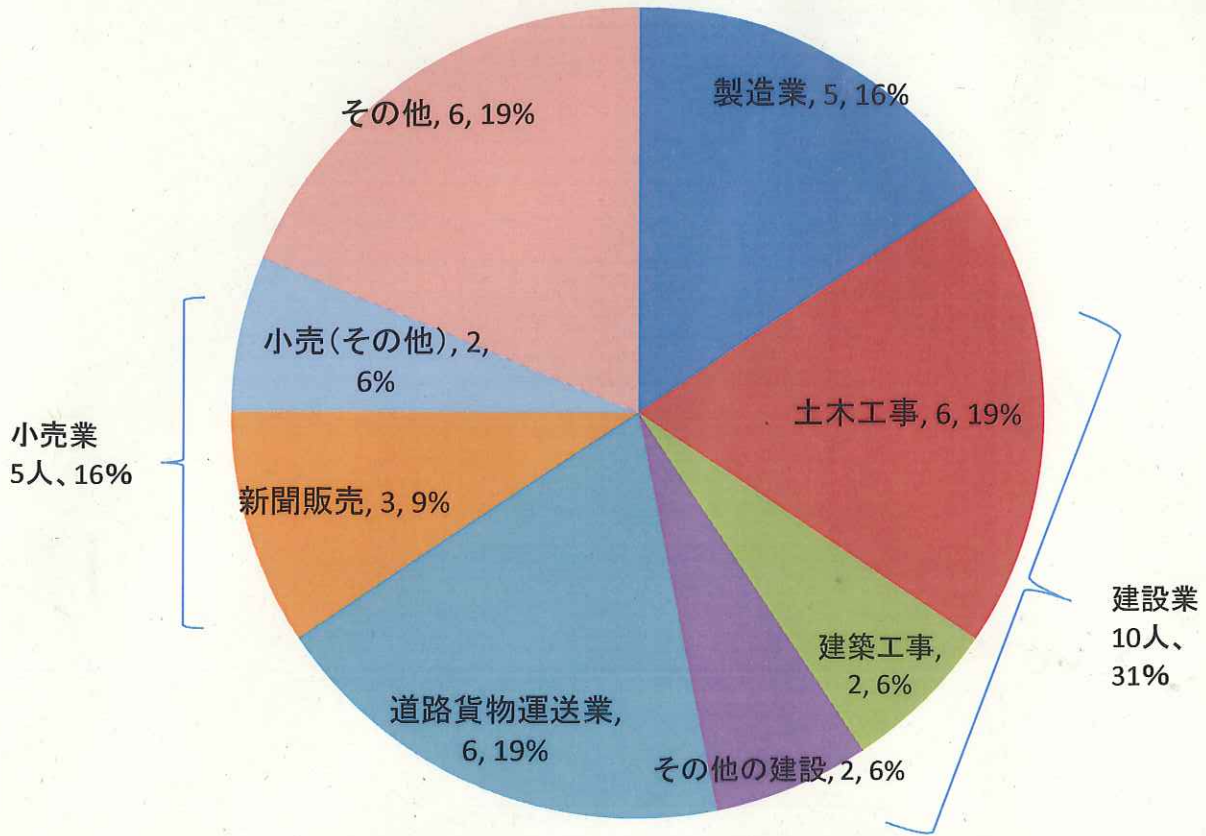
参考資料2 死亡者数の推移(茨城)



	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
全産業	61	40	48	38	51	61	37	43	44	31	43	26	28	33	32
建設業	28	16	14	11	18	27	12	17	12	9	19	9	8	7	16
製造業	9	8	16	10	13	8	6	7	11	2	10	10	7	6	2
運輸・貨物業	11	4	5	6	5	6	7	12	10	4	5	3	4	3	6
商業	4	6	7	4	8	7	3	2	4	9	3	1	3	4	1

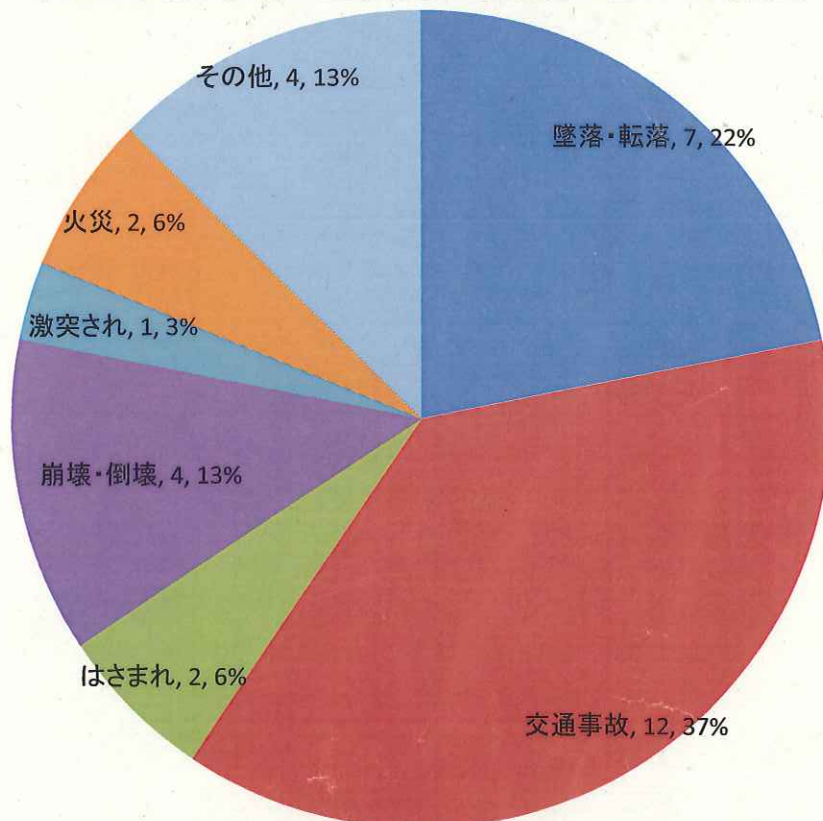
(注) 資料出所:「死亡災害報告」

平成24年死亡災害業種別発生件数(11月27日現在)



製造業	建設業			道路貨物運送業	商業		その他	合計
	土木工事	建築工事	その他の建設		新聞販売	小売(その他)		
5	6	2	2	6	3	2	6	32

平成24年死亡災害事故の型別発生件数(11月27日現在)



墜落・転落	交通事故	はさまれ	崩壊・倒壊	激突され	火災	その他	合計
7	12	2	4	1	2	4	32



## 平成 2 4 年 死 亡 災 害 事 例

NO. 発生日時	職 種 年齢 経験年数	事業の種類	事故の型		災害の概要
			起因物		
No.1 1月 10～11時	製造工 30歳代 1年	セメント・ 同製品製造業	はさまれ・ 巻き込まれ		建材の成型を行う工場内で、当該成型作業に従事していた被災者が、モルタルカッターという機械で所定の寸法に切断された際に発生する屑のうち、上面の屑を吸着させダンパーまで移動する機械（吸引マット）と鉄柱との間に頭部を挟まれ、死亡した。
			その他の 動力運搬機		
No.2 1月 7～8時	貨物自動車 運転者 50歳代 20年	一般貨物 自動車運送業	飛来・落下		湖の護岸工事の資材積み込みヤードにおいて、被災者がダンプの積み降ろしのため荷台上でシートを外していたところ、緩やかな坂（勾配5～6度）に停止させていたダンプが動き出し、坂を下り岸側の急斜面に乗り上げて横転。荷台から落ちた被災者の上に、積んでいた岩石が落下し死亡した。
			トラック		
No.3 2月 2～3時	配達員 50歳代 10ヶ月	新聞販売業	交通事故 (道路)		原動機付自転車にて新聞配達中、交差点で左方向から走行してきた10トントラックと衝突し、撥ね飛ばされ死亡した。
			乗用車・バス・ バイク		
No.4 2月 7～8時	貨物自動車 運転者 60歳代 11年	一般貨物 自動車運送業	交通事故 (道路)		トラックで道路を走行中、道路脇に停車していた重機に後方から衝突し、死亡した。
			トラック		
No.5、6 3月 14～15時	作業員・ 技能者 60歳代 17年	無機・有機 化学工業製品 製造業	火災		粉状の有機化合物を製造する製品倉庫が火災により全焼。当該倉庫内で小分けした製品を袋に詰める作業をしていた労働者2名が死亡した。他の1名が火傷した。
	50歳代 14年		その他の一 般動力機械		
No.7、8 3月 8～9時	作業員・ 技能者 10歳代 2年	産業廃棄物 処理業	交通事故 (道路)		事業所から中間処理工場まで3名でトラックにて向かう途中、片側2車線の緩いカーブで道路左脇の縁石に乗り上げ、街路樹数本をなぎ倒し、トラックの前部が大破した。その際、運転していた労働者と助手席に乗っていた労働者が車外に投げ出されて死亡し、後部座席の労働者は軽傷を負った。
	10歳代 1年		トラック		
No.9 4月 14～15時	電工 30歳代 12年	電気通信 工事業	感電		電気設備の点検整備作業において、特別高圧（66KV）変圧器の一次側ガイシをウエスで清掃しようとして2名で近づいたところ、1名が感電して約3m下に落下し、全身火傷により、9日後に死亡した。もう1名もスパークした火花で顔を火傷した。
			送配電線等		

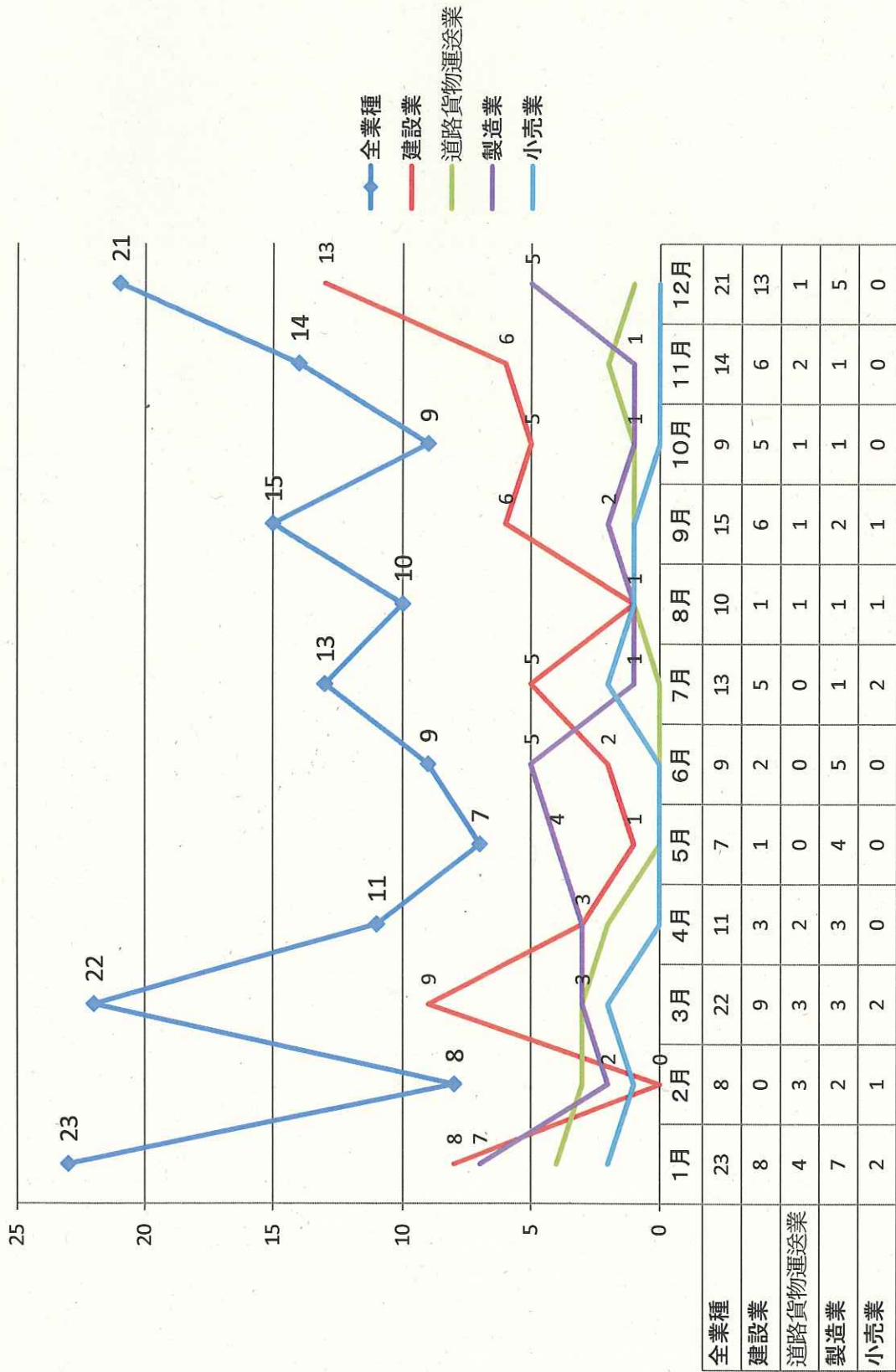
NO. 発生日時	職 種 年齢 経験年数	事業の種類	事故の型	災害の概要
			起因物	
No.10 4月 9～10時	作業員・ 技能者 50歳代 1年	産業廃棄物 処理業	墜落・転落  フォーク リフト	自動車解体業の敷地内で、4tトラックに古タイヤを積み込む作業において、解体した軽トラックの荷台をパレットの代わりにして、タイヤを乗せてフォークリフトにより持ち上げ、4tトラックへ移し替えていたら、パレット代わりにしていた軽トラックの荷台が横転した際、この荷台上で作業していた被災者は、荷台とともに地面に墜落し、病院へ搬送されたが6日後に死亡した。
No.11 4月 13～14時	土工 60歳代 37年	その他の土木 工事業	墜落・転落  建築物・ 構築物	個人所有の畑にU字溝（高さ90cm）を設置する作業において、中古のU字溝を所定の長さに切断するため、U字溝の上に乗ってエンジンカッターで切断したところ、切断部分が倒れ、被災者は落下。そのU字溝に背中をぶつけて負傷し、病院に搬送され、治療を受けていたが約3ヵ月後に死亡した。
No.12 5月 11～12時	土工 50歳代 20年	上下水道 工事業	激突され  掘削用機械	震災復旧に係る下水道工事において、簡易土止めを行い下水管を埋設した後、埋め戻すため、簡易土止めをまたぐ形でドラグ・ショベルを前進させたところ、地盤が陥没しドラグ・ショベルが前方に傾き、そのバケットが被災者の背中に当たり死亡した。 「震災復旧工事災害」
No.13、14 5月 13～14時	販売店員 40歳代 21年  30歳代 13年	自動車小売業	交通事故 (道路)  トラック	高速道路にて、道路工事で片側交互通行になっていたため停車していたところ、大型トラックがキャリアカーに追突、キャリアカーはその前に停車していた大型トラックに追突し、さらに前の普通自動車に追突した。このため、キャリアカーに乗っていた労働者2名が死亡した。
No.15 5月 9～10時	作業員・ 技能者 60歳代 1ヶ月未 満	その他の 建設業	墜落・転落  屋根・はり・ もや・けた・ 合掌	鉄骨造の米乾燥建屋の解体作業中、トタン屋根の上に乗って、自分の乗っているトタン屋根をサンダーで切断していたところ、トタン屋根が梁を支点に天秤のように傾いたため、被災者は高さ約8mから墜落し、死亡した。
No.16 6月 18～19時	電気 溶接工 30歳代 3年	その他の金属 製品製造業	崩壊・倒壊  金属材料	会社にて作業終了後、被災者は製品置き場にあつた10段に積まれた金属製ラック（1段の重量、68kg）にぶら下がったところ、ラックが倒れてその下敷きとなって死亡した。
No.17 6月 5～6時	貨物自動 車運転者 60歳代 26年	一般貨物 自動車運送業	交通事故 (道路)  トラック	片側1車線の道路で緩やかなカーブを走行中、反対車線からはみ出してきたトラックと衝突し、死亡した。

NO. 発生日時	職 種 年齢 経験年数	事業の種類	事故の型	災害の概要
			起因物	
No.18、19 6月 11～12時	鉄筋工 60歳代 30年	港湾海岸 工事業	崩壊・倒壊	岸壁建設工事において、被災者らは岸壁海側のたれ壁（鉄筋コンクリート製）を作るため、鉄筋を組み立てていたところ、高さ4m、長さ30mの組まれた当該鉄筋が海側へ傾きながら倒れ、3名が海に投げ出された。1名は自力で岸壁に泳ぎ着いたが、2名が海中で鉄筋の下敷き状になり死亡した。
	50歳代 20年		建築物・ 構築物	
No.20 7月 16～17時	貨物自動車 運転者 50歳代 12年	一般貨物 自動車運送業	崩壊・倒壊	12t積大型トラック（ウィング車）を運転し納品先にて荷下ろし作業のため、後部扉を開いて荷台に上り、荷を固定していたラッシングベルトを取り外し荷台から降りたところ、左右2列に並んだ荷のうち、右列の荷がひとりで後方へ滑り出し荷台から崩落した。続いて、左列の荷も同様に滑り出して崩落し、その場にいた被災者が下敷きになり死亡した。
			荷姿の物	
No.21 7月 3～4時	貨物自動車 運転者 20歳代 1年	一般貨物 自動車運送業	交通事故 (道路)	荷物を積みに行くためトラックを運転中、信号機のある交差点に差し掛かったところ、左から来た乗用車に激突され死亡した。
			トラック	
No.22 7月 8～9時	屋根ふき 工 60歳代 13ヶ月	木造家屋建築 工事業	墜落・転落	震災により破損した木造住宅の屋根瓦補修工事において、被災者がバケツを持った状態で屋根に上ったところ、バランスを崩して屋根（高さ3.82m）から墜落し、病院に搬送されたが10日後に死亡した。 「震災復旧工事災害」
			屋根・はり・ もや・けた・ 合掌	
No.23 8月 15～16時	作業者・ 技能者 30歳代 1年	農業	交通事故 (道路)	工場から800m離れた代表者の自宅にフォークリフトを移動するため、被災者がフォークリフトを運転し、町道の交差点を右折しようとしたところ、町道から約50cm下の水田に転落し、横転したフォークリフトの下敷きとなり死亡した。
			フォーク リフト	
No.24 8月 3～4時	配達員 40歳代 7年	新聞販売業	交通事故 (道路)	原付バイクで新聞配達中、右から来た乗用車と衝突し、12日後に死亡した。
			乗用車・バ ス・バイク	
No.25 8月 11～12時	大工 60歳代 30年	木造家屋建築 工事業	墜落・転落	住宅の改修工事において、テラスの天井に張ってある鉄線入りガラスを交換し、コーキング作業を2人で行うこととなり、1名がそのガラスの上に敷いてあるコンパネの上に登り、被災者はその補助者として約2mの脚立の3～4段目を登っている時に後ろに倒れて背中から落ち、後頭部をコンクリート床に打ち、死亡した。
			はしご等	

NO. 発生日時	職 種 年齢 経験年数	事業の種類	事故の型	災害の概要
			起因物	
No.26 9月 9～10時	軽作業者 60歳代 7年	その他の土木 工事業	おぼれ	水力発電水路護岸等の除草作業現場において、水路（幅約5m、深さ約1.3m）周囲に設けられたフェンス内の草取りを行っていた作業者が誤って水路内に転落し、そのまま水路内を流され、約2.5km下流で発見され、病院に搬送されたが間もなく死亡（溺水）が確認された。
			建築物・ 構築物	
No.27 9月 20～21時	運転者 60歳代 1年	一般貨物 自動車運送業	墜落・転落	工場内で、トラック（最大積載荷重7.2t）の荷台に積み込まれた木材の荷締め作業のため、荷台上の木材に上り、スリングベルトにより荷締め器で固定していたところ、約2.3m下の地面に墜落し死亡した。
			トラック	
No.28 9月 11～12時	運転者 50歳代 10ヶ月	旅館業	交通事故 (道路)	軽自動車を運転し、弁当の配達を終え事業場に戻る途中、信号機がない交差点において、片側2車線の国道に出ようとしたところ、走行してきたトラックと衝突し、死亡した。
			乗用車・バス・ バイク	
No.29 11月 8～9時	土工 60歳代 30年	道路建設 工事業	はさまれ・ 巻き込まれ	道路災害復旧工事において、整地作業を行っていたドラグ・ショベルが後退した際、当該ドラグ・ショベルの後方にいた被災者がキャタピラにひかれ死亡した。  「震災復旧工事災害」
			掘削用機械	
No.30 11月 5～6時	配達員 50歳代 10年	新聞販売業	交通事故 (道路)	バイクで新聞配達中、信号のない国道交差点で軽トラックと出会い頭に衝突、死亡した。
			トラック	
No.31 10月 16～17時	70歳代 25年	畜産業	墜落・転落	鶏舎の屋根上で屋根の修理を行っていた時、プラスチック製の波板を踏み抜き、3mの高さからコンクリートの床に墜落し、頭部を強打。入院先の病院で3日後に死亡した。
			屋根・はり・ もや・けた・ 合掌	
No.32 11月 18～19時	運転者 50歳代 6年	その他の電気 機械器具 製造業	転倒	被災者がフォークリフト運転中、運行経路上に置かれていたローリングランプ（コンテナ車に直接フォークリフトで荷受けするためのスロープ付き架台）のスロープに左前輪部を乗り上げてしまい右方向に横転、被災者は運転席から投げ出され、ヘッドガードと地面との間に胸部を挟まれ死亡した。
			フォーク リフト	

別添資料No. 3

月別死亡災害発生状況(平成19年~23年 茨城県内)



## 平成24年度年末・年始労働災害防止強化運動実施要綱

### 1 趣旨

茨城県における労働災害による休業4日以上之死傷者数は、平成22年、23年と2年連続で増加し、平成24年に入っても、その増加傾向には、歯止めがかからず、平成24年10月末現在の速報値では、対前年大幅増となった昨年をさらに31件上回っており、また、死亡災害については11月27日現在、32件発生し、対前年比9件の大幅増加（震災による直接原因を除く。）となっている。加えて、今後、年末・年始の繁忙期を迎え、さらなる労働災害の発生が懸念される状況にある。

こうした状況を踏まえ、年末・年始における死亡災害をはじめとする労働災害の防止を徹底するため、『平成24年度年末・年始労働災害防止強化運動』を展開し、同期間中の県下各事業場における活発な安全衛生管理活動を促進することとする。

### 2 実施期間

平成24年12月1日～平成25年1月31日

### 3 実施事項

#### (1) 労働局及び労働基準監督署の実施事項

- ア 事業場に対する監督指導及び安全衛生パトロール等を実施し、労働災害の発生を未然に防止する。
- イ 本運動の取組を推進するため、労働災害防止団体及び事業者団体等に対して協力を要請する。
- ウ 各種会議、集団指導等のあらゆる機会をとらえ、本運動の実施趣旨及び具体的実施事項について周知徹底を図る。

#### (2) 関係団体に要請する事項

- ア 傘下の事業場に対する周知徹底
- イ 自主的なパトロール等の実施

#### (3) 発注機関に要請する事項

- ア 災害復旧工事等の適正な発注条件の確保
- イ 受注業者に対する安全確保対策の徹底の指導
- ウ 自主的なパトロールの実施

#### (4) 事業場の実施事項

- ア 経営トップによる年末・年始の「災害発生ゼロ」に取り組む決意表明を行う。
- イ 事業場の代表者等による職場内の安全衛生パトロールを実施する。
- ウ リスクアセスメントの導入を促進し、自主的な安全衛生管理活動の活性化を図る。
- エ KY（危険予知）活動、作業開始前ミーティング等を実施し、職場の整理・整頓・清掃・清潔（4S）を徹底する。
- オ 各種作業主任者、就業制限業務等における資格を確認し、選任や配置状況に応じた

資格者の充足を行う。

カ 非常作業の洗い出しと、非常作業における災害防止対策の見直しを行う。

キ 機械設備に係る定期自主検査及び作業前点検を実施し、はさまれ・巻き込まれ災害等の防止を図る。

ク 火気の点検、確認等、火気管理を強化する。

ケ 交通労働災害防止ガイドラインに基づく各種項目を点検し、当該対策を推進する。

コ 適量飲酒や睡眠時間の確保等、生活リズムに関する健康指導を実施する。

カ サ 安全衛生旗の掲揚及び年末年始無災害運動ポスター、のぼり等を掲示する。

シ その他、労働安全衛生の意識高揚のための活動を実施する。